



第62号 (2016年春)

祝卒業・  
新入生歓迎号



## 選ぶ楽しさ、 伝える喜び

112D071 村崎 はるか



図書館での思い出と言えば、学生選書が一番強く印象に残っている。

学生選書では私たち学生が書店に行って（あるいはリストを用意して）自分の読みたい本、他人に読んでもらいたい本を選び、その本がまだ大学の蔵書の中になれば、大学図書館が購入し、新しく蔵書の中に加えてくれる。

学生の役割はそれで終わり、というわけではない。自分が選んだ本を読み、選書の参加者が集ま

り読書会を開き、本のプレゼンを行うのだ。

この読書会の一番面白いところは、参加者それぞれの本の好みや読書傾向が、ほんの1、2分でわかってしまうところだ。一番多いのはやはり小説だが、同じ小説という形態であっても、ある人は純文学や詩集、またある人は児童文学、ライトノベル、またまたある人はホラー、ミステリーと、見事にジャンルがバラバラだった。小説以外にも、専門書やノンフィクション作品、写真集を選んでいる人もいた。

私は普段から推理小説、特に警察小説を好んで読んでいて、偏った読書傾向になっているのだが、読書会で他の人たちのプレゼンを聞いて、それまでの自分なら絶対に興味を持たなかつたであろうジャンルの作品を、少しずつではあるが読むようになり、ありきたりな言葉ではあるが、世界が広がったような、そんな風に感じられた。

さて、学生選書も読書会を行ってよいよ終わりか、というところ、そうではない。最後の仕事として、本を紹介するポップ作りがある。自分が選んだ本を紹介するポップを自分の手で作成し、図書館の一角で本と一緒に展示する。

個人的に、このポップ作りは作成段階ではなく、展示してからが一番楽しいと私は思っている。学生選書コーナーに展示されていた本が貸出状態になっているのを見たときだ。それはつまり、自分が面白いと思った本が、自分の手で試行錯誤しながら作ったポップを見た人によって借りられていったということ……このときの嬉しさと言ったら、緩んでしまう頬を引き締めようとして失敗してしまうほどだ。

本が好きな人はもちろん、そうでない人も、ぜひ一度は学生選書に参加してみしてほしい。書店やリストで本を選んでいるときのワクワク感、読書会、ポップ作りの楽しさ、展示した本が貸し出されていることに気づいたときの嬉しさを味わってもらいたい。  
(こども心理学科4年)

## 図書館サポーター「セラエノ」

有志学生が、図書館をより便利に楽しくする展示・広報・イベントなどの活動を行っています。

活動日：毎月第三月曜日 昼休み

活動場所：図書館2階アクティブラーニング室D